童

2010.12、22

クリスマスマーケットは本当にありがとうございました。朝の準備時に、空から降り注ぐ雪、みるみるうちに道路が白く染まりました。朝のおよそ３時間位の一時でしたが、まさにクリスマス、年末を実感させる一瞬でした。そう言えば、ここ数年、年末が近いぞ、もうすぐ正月だぞ、という体感（実感）が薄れてきています。テレビでも見ていれば、きっとクリスマス、お正月などの映像や情報が入ってきますが、そう言うものと無縁な暮らしでは、やはり、自然の姿、情景、流れ、そして、人との会話などから、季節の流れ、更に宇宙の流れ、そして、人間、自分の存在・位置を直感的に感じる事が出来るでしょう。

毎朝、起きて外へ出て、いつもの星の位置、月の姿、輝き、空気の暖かさなどを体感していると、自然の営みや季節の流れを知ることが出来、テレビなどでは味わえない大きな喜びと感動、そして理解があります。そして、早朝に必ず出会う散歩する人との挨拶、出勤する同じ車、必ず電気のついている家、など、人間の暮らしの出会いの喜びがあります。

子ども達が大地で暮らす一時は、大人が直接的に遊んであげる、相手をしてあげる場面と同時に、自分の世界、子ども同士の世界で日々の繰り返しの暮らしの中で、直感出来る場面を十分設定してあげたいと思っています。

素敵な年末年始をお過ごし下さい。

【イクメン】 今回はお父さん向け。（お母さんは受け入れられないかも）

今回は、青ちゃん独自の父性原理理論をお話したいと思います。

最近、新聞マスコミで登場する言葉。イクメン＝育児をするメンズ（男）の略称でしょうか。掃除や授乳や抱っこなど男性向けの冊子なども華やからしい。いずれこの話題を取り上げようと思っていましたが、私には、アレルギーがあるのと同時に、何を今更という思いと、何か厳しいことからの逃避、直面することを避けている、本来の役割から逃れているということを感じていました。

家族で過ごす時間や一時を楽しむ時間を生み出すには、炊事や洗濯を協力してやった方が早く済むし、授乳やおむつ替えやおんぶも身体の空いている方がやり、その分違う仕事を済ませれば、さっと済んで、遊びに出かけることが出来るし、さぞ合理的効率的に生活、暮らしが楽しめます。だから、当たり前の事であり、これが特別注目されると云うことは、何か別の意味合いがあると感じていました。

先日のお父さん達との１回目の会合で、「父親は育児書など読まない方が良い」という問題を投げかけ、２回目では、そのあたりを、河合隼雄さんの「父性原理・母性原理」を中心に論議、読み合わせをして、その本質を皆で討論しました。

父親の育児は「**経済的支援を含めて母親の精神的安定が８割以上である**」と思っています。残り２割は、目に見える炊事や洗濯や授乳などの肉体的補助かなと思います。家族は、本質的に子育ての場ですね。約２０年間位に渡って子どもを抱え込んで育てるのですから、ここには家族の恒常性が必要になります。

その中の母と子をくるんで安心させるのが父親。自分の分身である子を持つ母親。子育ての最前線に立つ現業の母親。だから父親とは、まず愛する者、つまり妻を何よりも大切にする人のことだと思います。自分の愛する人を何よりも大事にするには、その女性が最も大切に分身としている、その女性の子どもを大切にしなければならない。この構図が、父親（父性）の基本原理だと思っています。

この原理の上に立ち、善悪・是非を教えて行くのが父親の役割であり、母親は自分の分身であるだけに、どうしても溺れ込み、逆に子どもは愛着を持ちすぎてしまう危険もあります。ここに、厳しい自然法（暮らしや人生の厳しさ・掟）を教えていく人が必要です。でもこれはとても厳しい愛情が必要になります。この場面を受け持ちたくない、逃れたい、友達パパとして優しくありたいという、逃避が、このイクメンから私は、感じてしまいます。

子どもを育てるには、「母性原理と父性原理」が必要です。父性原理は「切る、区別する」です。その領域は３つ

①内と外を切ること。ここからが家族でここからは外だ、私が責任を持つのはここ、と。

②善悪正邪。これはやっても駄目。良いこと悪いことをハッキリ伝える事。今は不正義なことをしていても甘く対処したり見てみぬふりをしたりの父性原理でなく不正原理かも。

③母子の関係を切ること。「お母さんを愛しているから、お母さんは俺のもの」という態度。夫婦を基本にしておくと子どもは両親から区切られ、自分は将来夫婦にとって邪魔だから、時期が来たら出て行く、離れていくという原理。

※ 母性原理は「保護する、守る　包む　繋ぐ　承認」などですので、この正反対の父性原理は、受け入れがたいかも知れません。

現在のイクメンには、この母性原理だけを母親に合わせて父親も揃ってやっていくことが、幸せハッピー感があるというニュアンスを感じてしまいます。もちろん、母親の現場での苦労を軽減させること、分かち合うこと、協力して分業することは素晴らしいことであり、当たり前の事です。冒頭にもありますように、協力していやれば充実感、安堵感母親の安定、そして、ゆとりある時間が生まれます。

大切なことは、父性原理・母性原理のバランスです。子どもが社会で暮らしていくには、父性原理なくしては、社会へ出て行く事はできません。それこそ、家庭内だけで生きていくことは厳しいですが。（引きこもり等）　誰かがこの厳しさを伴う父性原理を行使していく人が必要なのです。この原理が家庭の中にあってこそ、イクメンという言葉が、存在するのであり、この厳しさを受け持ちたくない、これから逃避するためのイクメンであって欲しくないというのが、私の願いです。

もう一つ　父親との１回目の会合で話題になったこと。「ランドセルの色はどうするか」

ランドセル購入のシーズンで、大地のｽﾀｯﾌがジャスコのランドセル売り場で見かけた光景。**母親**「好きなランドセルにしたら、選んで良いのよ」（子ども　ピンク色を選ぶ）母親「赤の方が大きくなって飽きなくて良いわよ」（母子でああだこうだと言っている、母親、そうして、傍にいる父親に向かい）　**母親**「お父さん、どう思う」**父親**「どっちでも良いよ、子どもの好きなようにしたら」　この時の父親の態度がキーワード。２回目の会合では、夫婦の議論、エネルギーのせめぎ合い、あくまでも、**過程**　が大切ということになりました。深い議論でした。